

「第2回目の教会成長報告」

使徒4：32～37

1. はじめに

(1) ペテロとヨハネは、サンヘドリンから脅迫された。

①個人的な会話の中でイエス（この名）について語ってはならない。

②公のメッセージによってイエス（この名）について教えるはならない。

(2) 彼らは脅しに屈することはなかった。

①教会は一致して神に祈った。

②神はその祈りにお答えになった。

Act 4:31 彼らがこう祈ると、その集まっていた場所が震い動き、一同は聖霊に満たされ、神のことばを大胆に語りだした。

③きょうの箇所は、その大胆な宣教活動がどのような実を結んだかの報告である。

(3) 第1回目の教会成長報告は、使2：42～47にあった。

①決心した信者たちの弟子訓練が継続して行われた。

Act 2:42 そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをして  
いた。

②貧しい兄弟たちのために、自分の持ち物を売って分配していた。

Act 2:44 信者となった者たちはみないっしょにいて、いっさいの物を共有にしていた。

Act 2:45 そして、資産や持ち物を売っては、それぞれの必要に応じて、みなに分配していた。

2. アウトライン

(1) 教会の成長（32～33節）

(2) 相互扶助（34～35節）

(3) バルナバの例（36～37節）

結論：家の教会について

第2回目の教会成長報告について学ぶ。

I. 教会の成長（32～33節）

1. 32節

Act 4:32 信じた者の群れは、心と思いを一つにして、だれひとりその持ち物を自分のものと言わず、すべてを共有にしていた。

(1) 「信じた者の群れ」

①イエスの復活を目撃した人は500人以上いた。

1Co 15:6 その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。

②二階部屋で祈っていたのは、120人ほどの兄弟たちであった。

Act 1:15 そのころ、百二十名ほどの兄弟たちが集まっていたが、ペテロはその中に立ってこう言った。

③ペンテコステの日に、3000人ほどが弟子に加えられた。

Act 2:41 そこで、彼のことばを受け入れた者は、バプテスマを受けた。その日、三千人ほどが弟子に加えられた。

\*この段階で、女性や子どもも含めると、約1万人の信者になった。

④ペテロの第2回目のメッセージによって、5000人ほどが救われた。

Act 4:4 しかし、みことばを聞いた人々が大きい信じ、男の数が五千人ほどになった。

\*この段階で、女性や子どもも含めると、約2万5000人の信者になった。

\*ディアスポラのユダヤ人たちはエルサレムを離れたと思われる。

\*それでも、2万人前後の信者がエルサレムとその近郊にいたことになる。

⑤パリサイ派やサドカイ派との比較（ヨセフスが残した記録）

\*パリサイ派の正式なメンバーは、約6000人。

\*サドカイ派の正式なメンバーは、それよりもはるかに少数である。

\*両派が教会を敵視する理由がよく分かる。

⑥使徒たちは、エルサレム教会の奉仕に手一杯で、外に出て行く余裕がなかった。

(2) 「心と意思を一つにして、…すべてを共有にしていた」

①キリストに愛による一致があった。

②その一致は、物の共有という形で表現された。

③必要が生じた場合、土地や家を売って、その代金を貧しい人に与えた。

④これは、富の平等を目指したものではない。

⑤また、私有財産を否定するものでもない。

⑥これは、イエスの弟子たちによる自発的な慈善の実行である。

2. 33節

Act 4:33 使徒たちは、主イエスの復活を非常に力強くあかしし、大きな恵みとそのすべての者の上にあった。

(1) 神の御心に叶う行為は、神に喜ばれる。

①使徒たちの力強いあかし（超自然的な力）

②大きな恵み

II. 相互扶助（34～35節）

1. 34～35節

Act 4:34 彼らの中には、ひとりも乏しい者がなかった。地所や家を持っている者は、それを売り、代金を携えて来て、

Act 4:35 使徒たちの足もとに置き、その金は必要に従っておのおのに分け与えられたからである。

(1) 相互扶助の原則

- ①信者の中に生活苦の者たちが出る。
- ②それを知った誰かが、自発的に地所や家を売り、金に変える。
- ③その金を教会に委ねる。
- ④使徒たちが責任をもって管理し、必要に従っておのおのに分け与えた。

(2) 使徒たちのこの奉仕は、後になって別の人たちに委譲されるようになる。

- ①使6：1～6
- ②7人のリーダーが選ばれる。

III. バルナバの例（36～37節）

1. 36～37節

Act 4:36 キプロス生まれのレビ人で、使徒たちによってバルナバ(訳すと、慰めの子)と呼ばれていたヨセフも、

Act 4:37 畑を持っていたので、それを売り、その代金を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。

(1) バルナバの登場

- ①ルカはここでバルナバを登場させている。
- ②バルナバは、使徒の働きの中で重要な役割を演じるようになる。
- ③バルナバは、ここでは、慈善を実行した人物の例として登場する。

\*アナニヤとサツピラとの対比のためである。

(2) バルナバという人物

- ①キプロス生まれのユダヤ人で、レビ人（レビ族の人）である。

\*彼は、ディアスポラのユダヤ人であるが、今はエルサレムに住んでいる。

②本名は、ヨセフである。

③ニックネームは、「慰めの子」である。

\* 「Son of consolation」

\* 「子 (son)」は、その人の性質を表わす言葉である。

④エウセビオスの記録

\*バルナバは、イエスが派遣した70人の弟子たちのひとりである(ルカ10)。

⑤バルナバのいとこがマルコである。

Col 4:10 私といっしょに囚人となっているアリスタルコが、あなたがたによろしくと  
います。バルナバのいとこであるマルコも同じです——この人については、もし彼があな  
たのところに行ったなら、歓迎するようにという指示をあなたがたは受けています。——

### (3) バルナバの行為

①「畑を持っていたので、それを売り、」

②モーセの律法では、レビ族の者は土地を所有することができなかった。

Num 18:23b 彼らはイスラエル人の中であって相続地を持つてはならない。

Num 18:24 それは、イスラエル人が、奉納物として【主】に供える十分の一を、わたしは彼ら  
の相続財産としてレビ人に与えるからである。それゆえわたしは彼らがイスラエル人の中で  
相続地を持つてはならないと、彼らに言ったのである。」

③バルナバは、なぜ土地を所有していたのか。

\*この土地は、キプロス島の土地の可能性がある。

\*捕囚からの帰還以降、レビ族に対する土地所有禁止命令が緩やかになった。

\*その証拠に、サドカイ派の人たちは大金持ちになっていた。

### (4) 使徒の働きが記録するバルナバの奉仕

①バルナバは、迫害が起こってもエルサレムから避難しなかった(8章)。

②パウロの友となった。

Act 9:26 サウロはエルサレムに着いて、弟子たちの仲間に入ろうと試みたが、みなは彼を弟  
子だとは信じないで、恐れていた。

Act 9:27 ところが、バルナバは彼を引き受けて、使徒たちのところへ連れて行き、彼がダマ  
スコへ行く途中で主を見た様子や、主が彼に向かって語られたこと、また彼がダマスコでイエ  
スの御名を大胆に宣べた様子などを彼らに説明した。

③使徒たちの信任を受け、アンテオケ教会に派遣された。

Act 11:22 この知らせが、エルサレムにある教会に聞こえたので、彼らはバルナバをアンテオ  
ケに派遣した。

Act 11:23 彼はそこに到着したとき、神の恵みを見て喜び、みなが心を堅く保って、常に主に

とどまっているようにと励ました。

④彼は、聖霊の満たしによって奉仕した。

Act 11:24 彼はよりっぱな人物で、聖霊と信仰に満ちている人であった。こうして、大ぜいの人  
が主に導かれた。

⑤彼は、パウロをアンテオケ教会での奉仕に誘い出した。

Act 11:25 バルナバはサウロを捜しにタルソへ行き、

Act 11:26 彼に会って、アンテオケに連れて来た。そして、まる一年の間、彼らは教会に集ま  
り、大ぜいの人たちを教えた。弟子たちは、アンテオケで初めて、キリスト者と呼ばれるよう  
になった。

⑥パウロと協力して異邦人伝道に取り組んだ（第1回伝道旅行）（13～14章）。

⑦マルコの処遇を巡ってパウロと対立した（15：36～39）。

#### 結論：家の教会について

(1) 初期の教会は、すべて家の教会であった。

①信仰は、限定的な聖なる場所（神殿）から解放され、普遍的な生活の場である家に  
本拠を移した。

②この状態が、約200年間続いた。

(2) 私たちは、家の教会しかなかったのは経済的理由によると思いがちである。

①このこと自体が、建物中心の教会しか考えられない現代人の限界性を示している。

②今こそ、家の教会の利点に目を開かれる必要がある。

(3) 家の教会の利点

①経済的利点

\* 建物のためにお金を使う必要がなくなる。

\* 献金を伝道のため、愛の実践のために用いることができる。

②物理的利点

\* 建物がなくても集会を開くことができる。

\* 会堂の使用頻度を考えると、建築費、維持費、補修費などは割に合わない。

③伝道上の利点

\* 建物を巡る競争心、嫉妬心などから解放される。

\* 建物がないと信用されないので、伝道は難しくなるという人がいる。

\* 初期の教会においては、家の教会は信徒のための礼拝と交わりの場であった。

\* 彼らは日常生活の場で伝道し、決心した人を家の教会に招いた。

\*新しく救われた人たちは、家の教会に受け入れられ、そこで弟子訓練を受けた。

④文化的利点

\*未信者は教会に対して警戒心を抱いている。

- ・形式主義への恐れ
- ・組織に束縛されることへの恐れ
- ・献金への恐れ

\*家の教会は、どの文化とも調和する形態である。

- ・日常的な雰囲気
- ・少人数の集会
- ・対話型の集会

(4) 教会とは何か。

①イエス・キリストを救い主と信じる人たちの群れである。

②一番重要なのは、イエス・キリストが中心にいるかどうかである。

③使徒の働きの中に見られるパターン

\*新しい地に出て行き、伝道する。

\*信者が起されたなら、彼らを地域集会として組織化する。

\*群れを導く指導者として、複数の長老を任命する。

\*群れによって選ばれた複数の執事が置かれる。

④神は、このような教会を通してご自身の働きを進めてくださる。